

鹿児島女子短期大学
IR 報告書

「成長実感と推奨度について」(2025年9月)

2025年9月

IR 室

「短期大学生調査」の成果を活用し、2023年入学し、2024年度に卒業した学生が、どのような授業経験をしているか、どのような成長実感を持っているのか、そして、本学を親しい友人、親族にすすめたいと思うかといった推奨度を分析したその結果を報告する。この結果から、学生にどのような授業経験を提供することで、成長実感を高められる可能性があるという示唆を得ることができる。

1. 調査概要

- (1) 調査名 : 短期大学生調査
- (2) 調査期間: 2023年、2024年9月～11月

2. 結果

2023年に入学した学生に対し、入学してから受講した授業等に対し、どの程度変化(向上)したか、1年時と2年時の成長実感についてクロス集計を全国と比較した内容(図1～18)を示す。なお、項目については、因子分析(別紙)を行い、それぞれ、「総合的な知識」「情報リテラシーと表現力」「社会貢献意識」「総合的なビジネススキル」「キャリアデザイン意識」とした。

*総回答数(2023年度入学生)

| | 1年生 | 2年生 | (人) |
|----|-------|-------|-----|
| 本学 | 267 | 264 | |
| 全国 | 6,666 | 6,092 | |

(1) 総合的な知識

① 一般的な教養

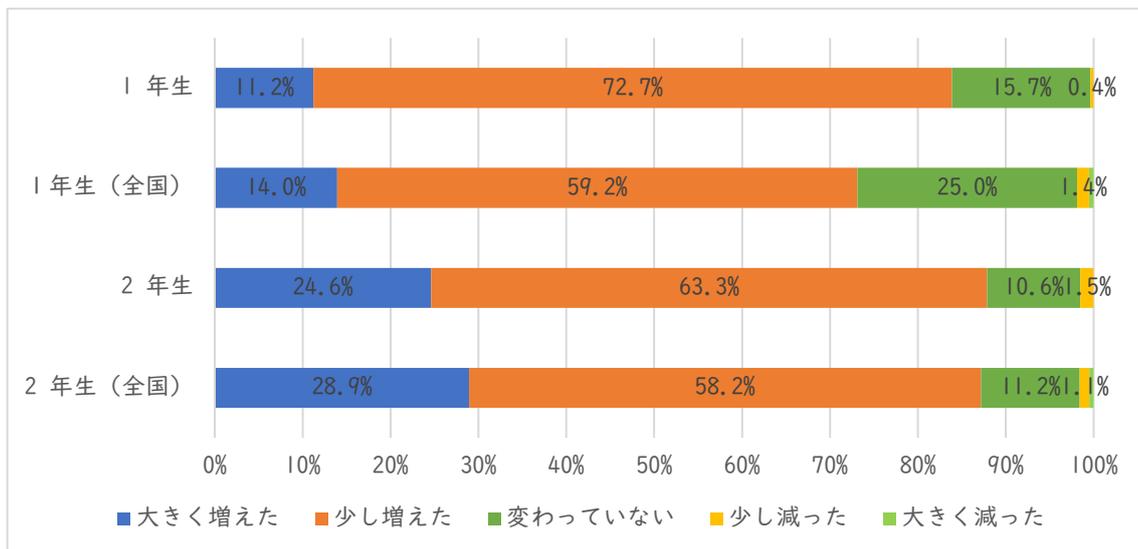


図1

② 専門分野や学科の知識

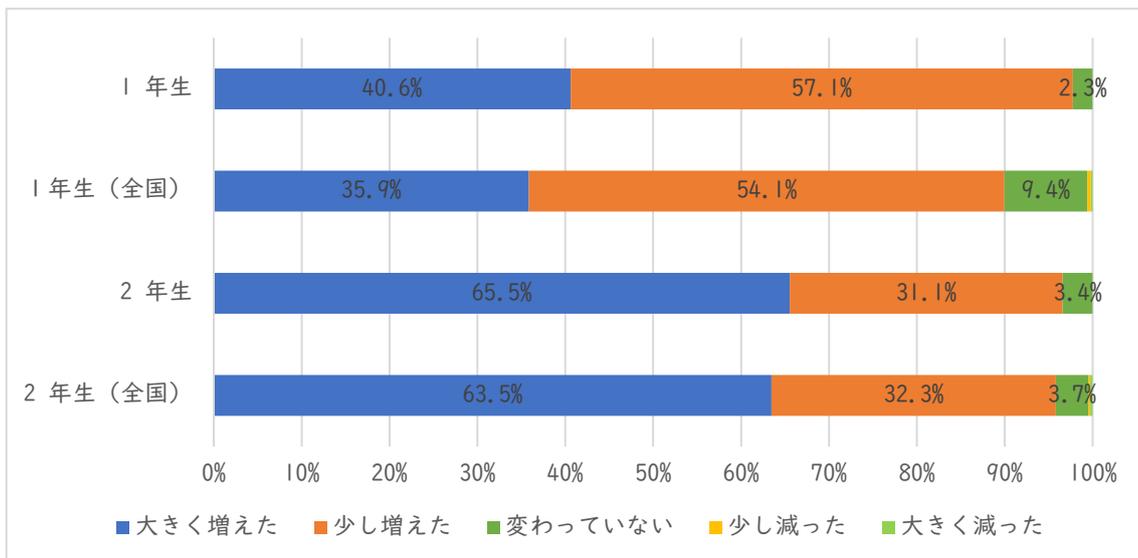


図 2

③ 論理的に考える力

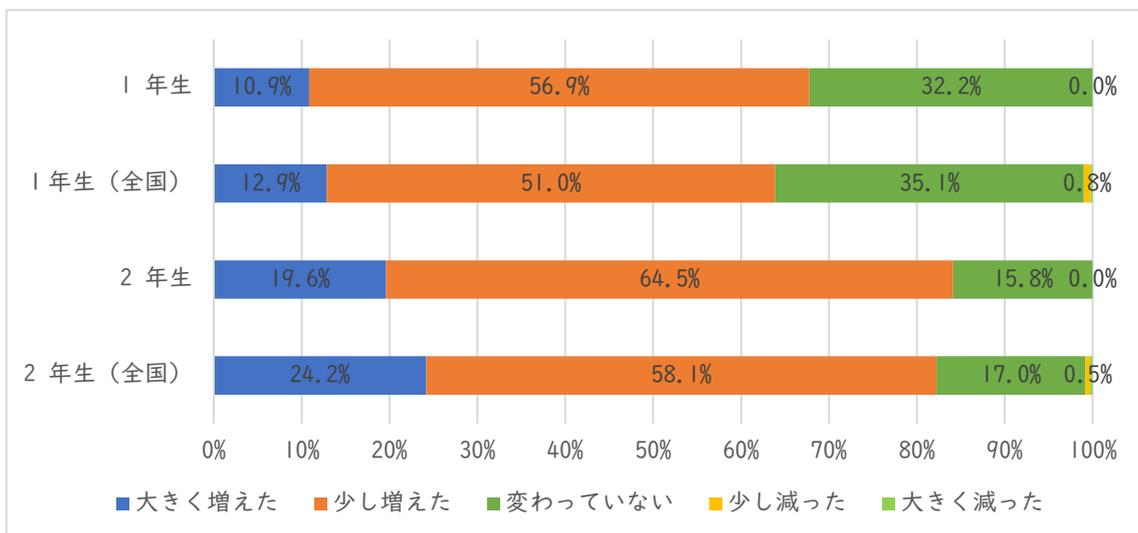


図 3

(2) 情報リテラシーと表現力

①文章(レポートなど)を書く力

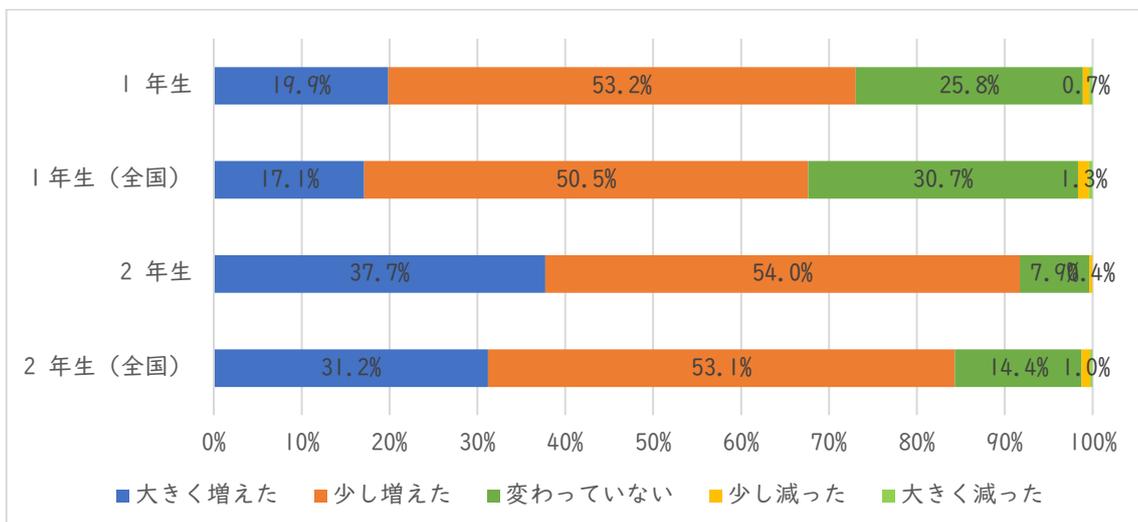


図 4

②本や資料などを読み解く力

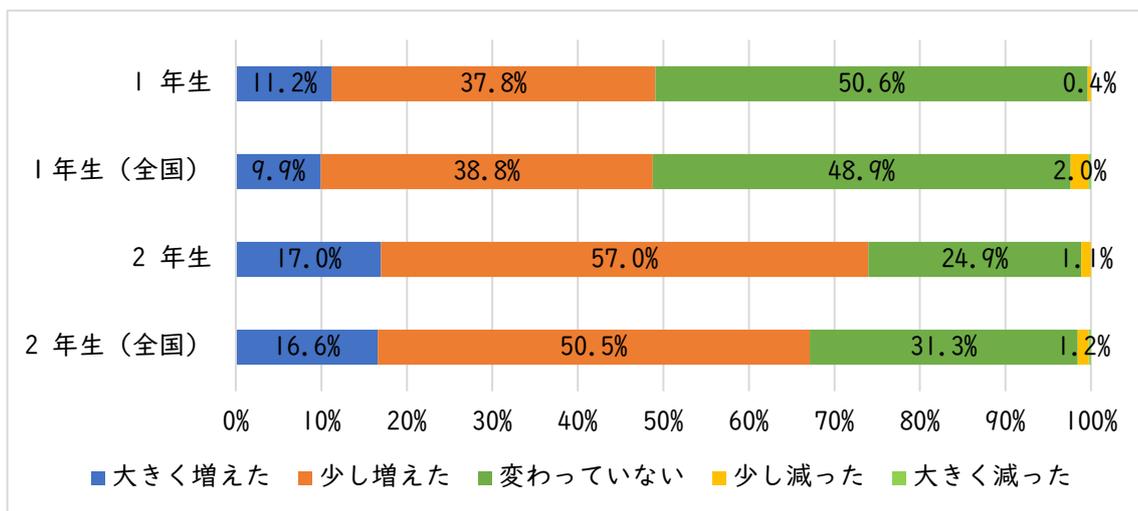


図5

③ 数値やデータを理解する力

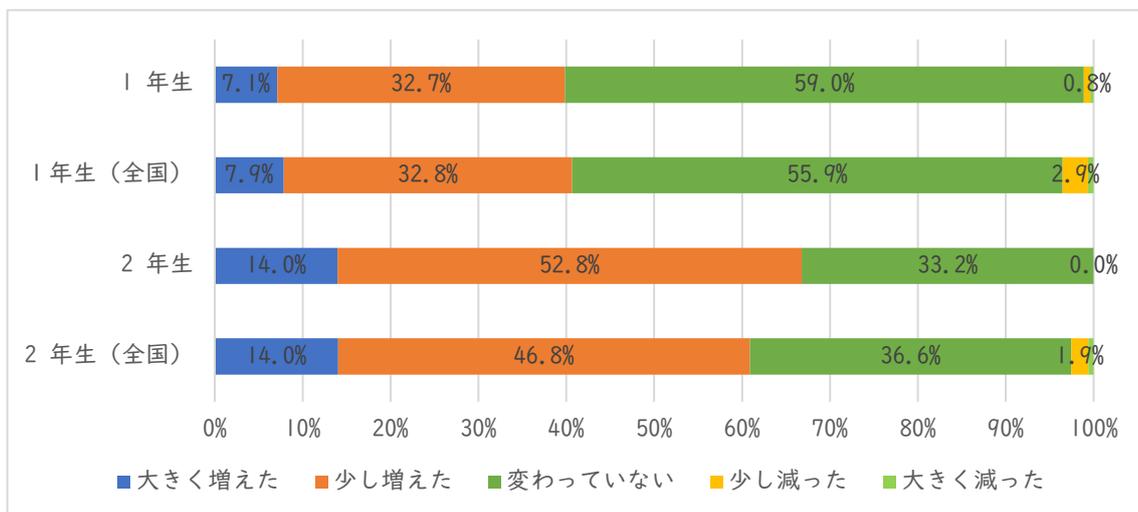


図6

④ パソコンやタブレットなどの情報機器を使う力

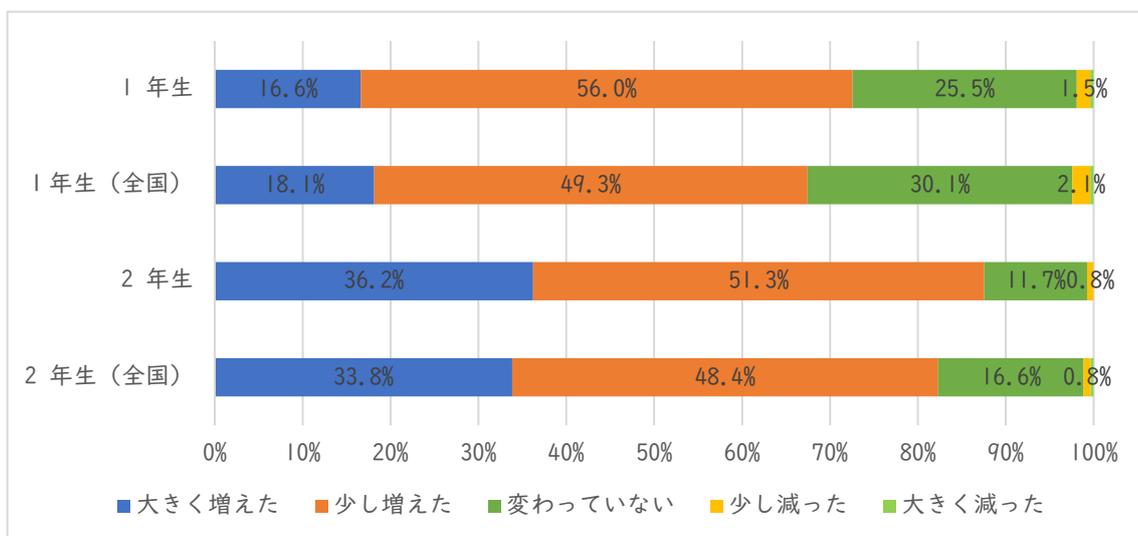


図7

(3) 社会貢献意識

① 社会の抱える様々な問題を理解する力

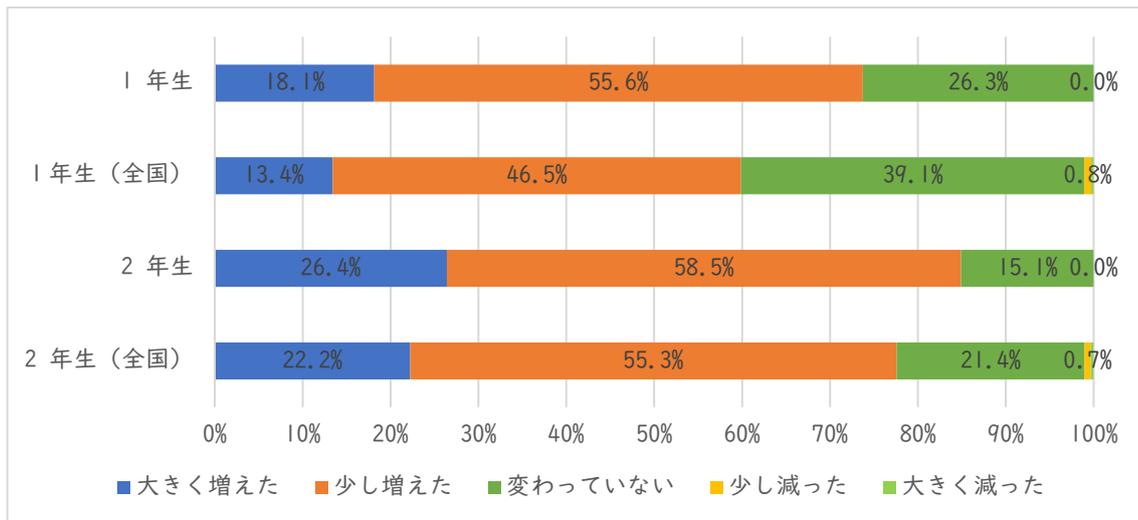


図8

② 異なる文化や考えを持つ人々を理解する力

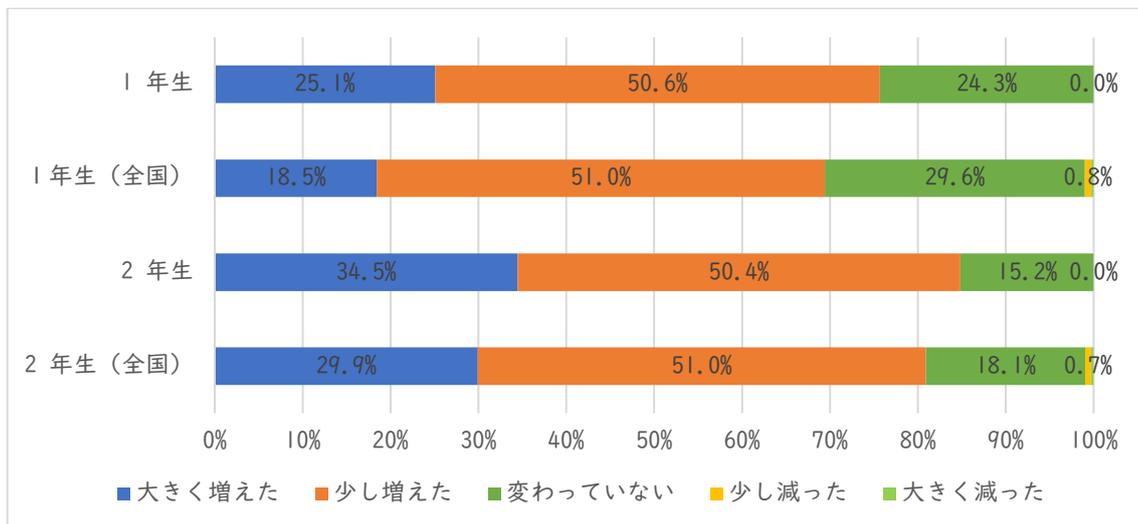


図9

③ 地域や社会に貢献する意識

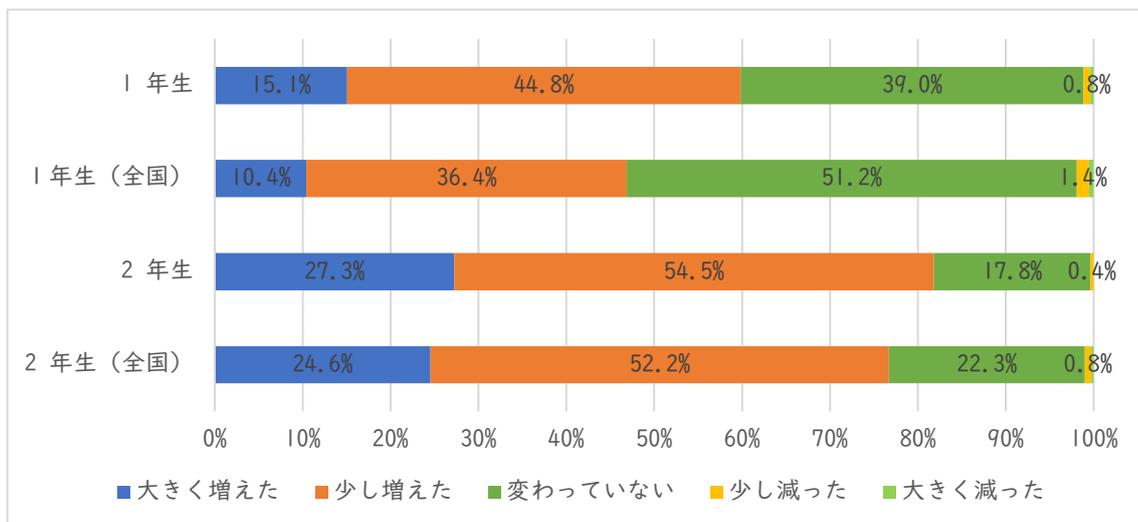


図10

(4) 総合的なビジネススキル

①他の人と上手に意思の疎通を行う力 (コミュニケーション能力)

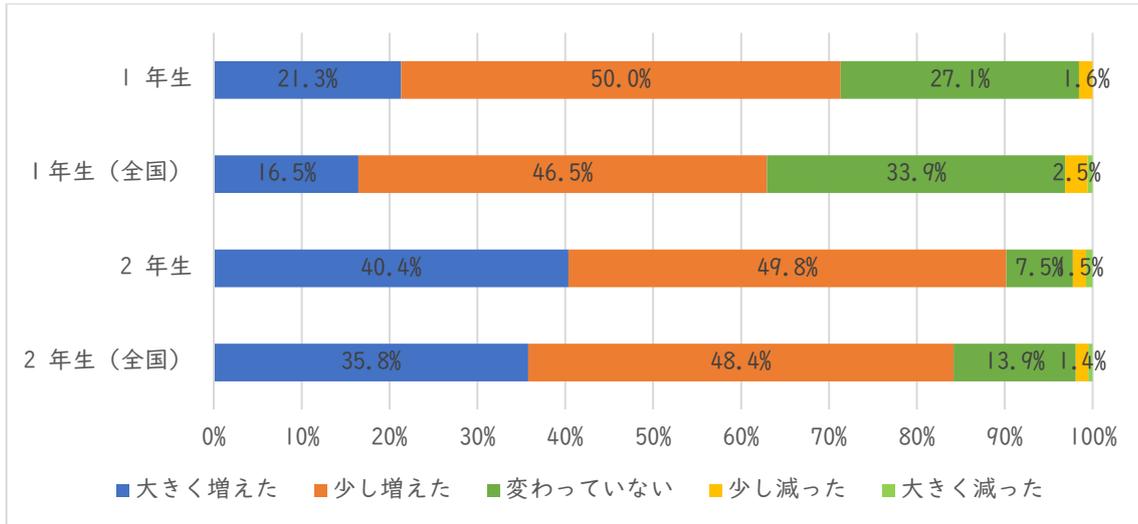


図 11

②チームや組織をリードする力 (リーダーシップ)

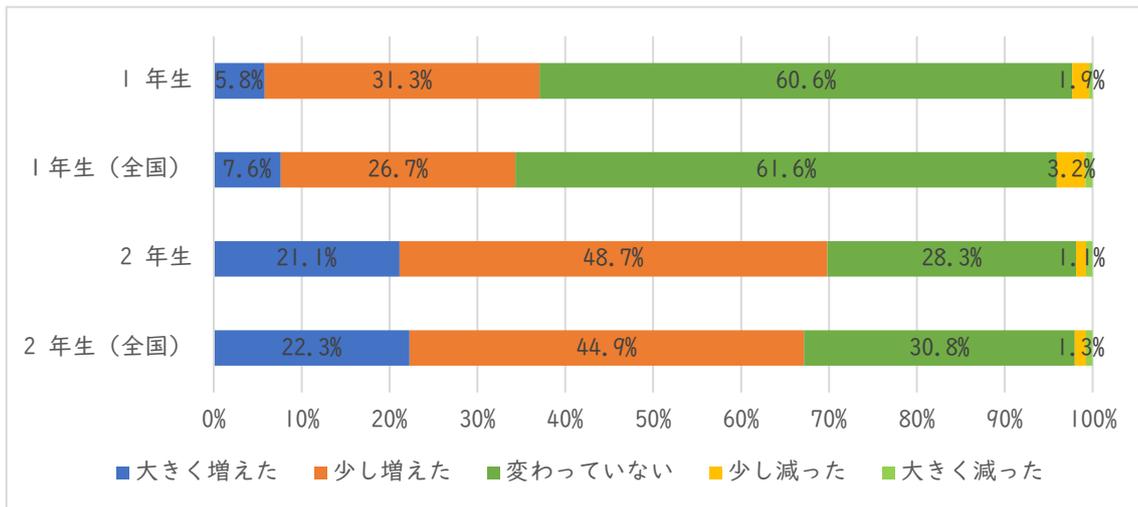


図 12

③人前で発表をする力 (プレゼンテーション能力)

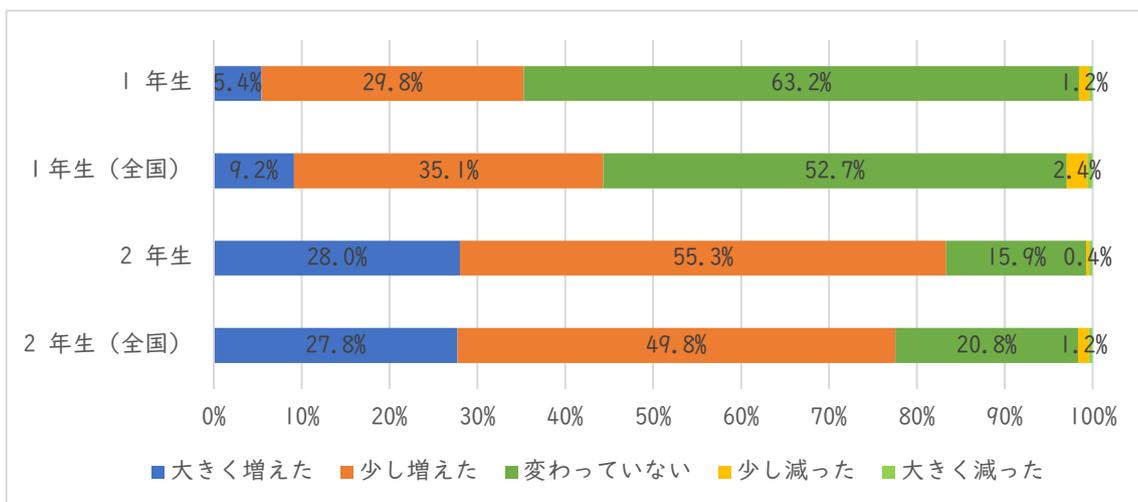


図 13

(5) キャリアデザイン意識

①計画性・スケジュール管理能力

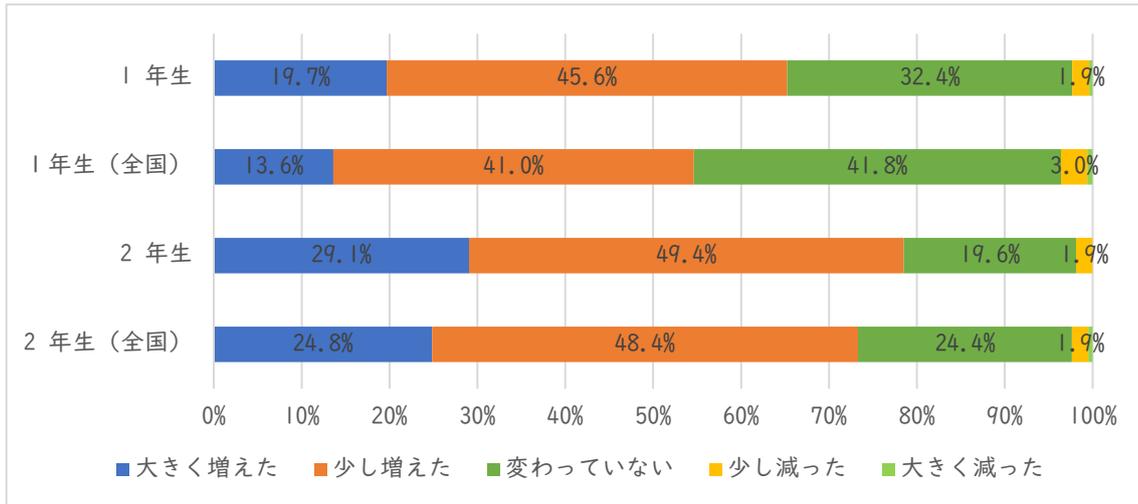


図14

②ねばり強く取り組む力

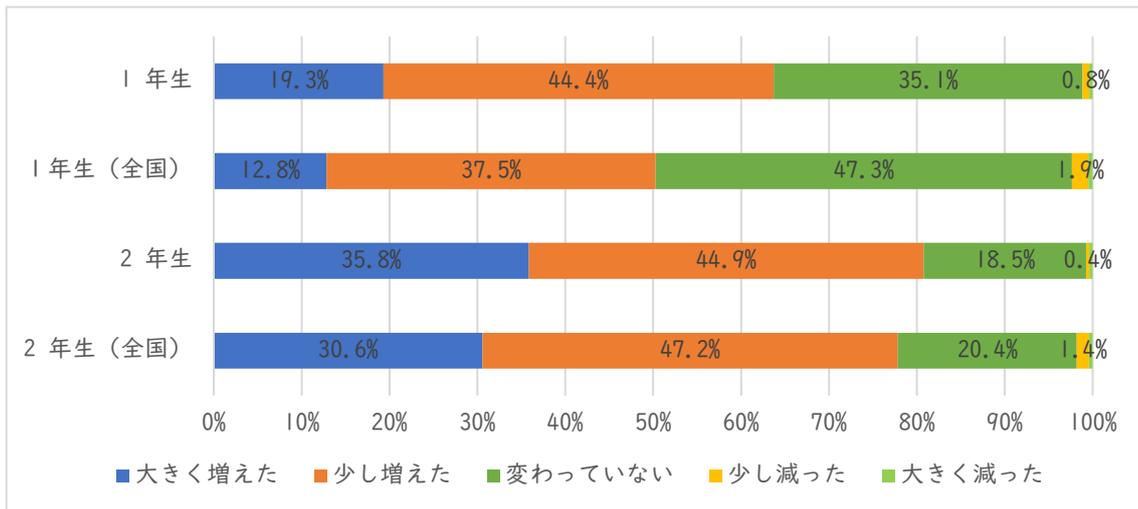


図15

③挑戦する力(チャレンジ精神)

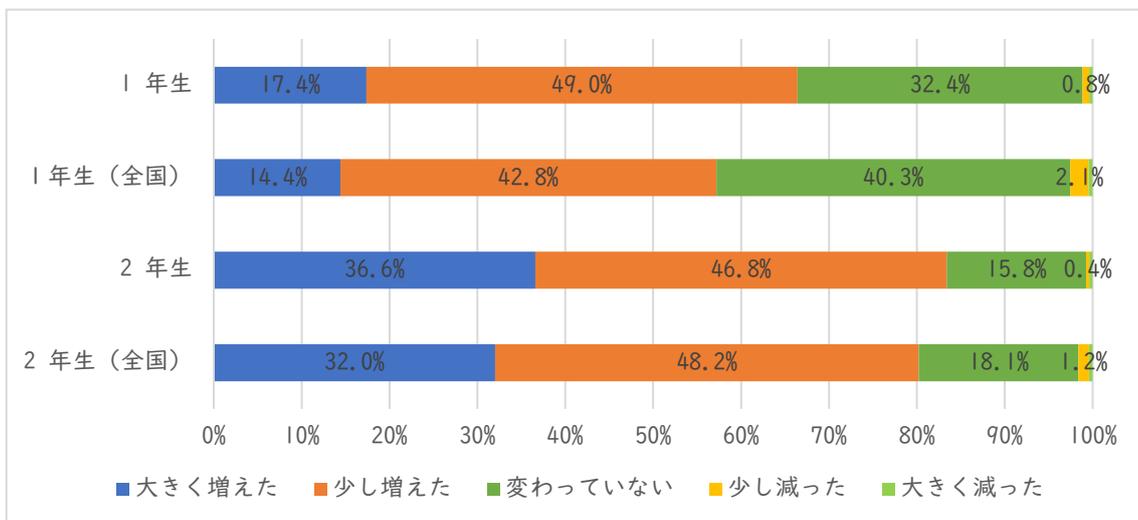


図16

④ 自己を理解し肯定する意識

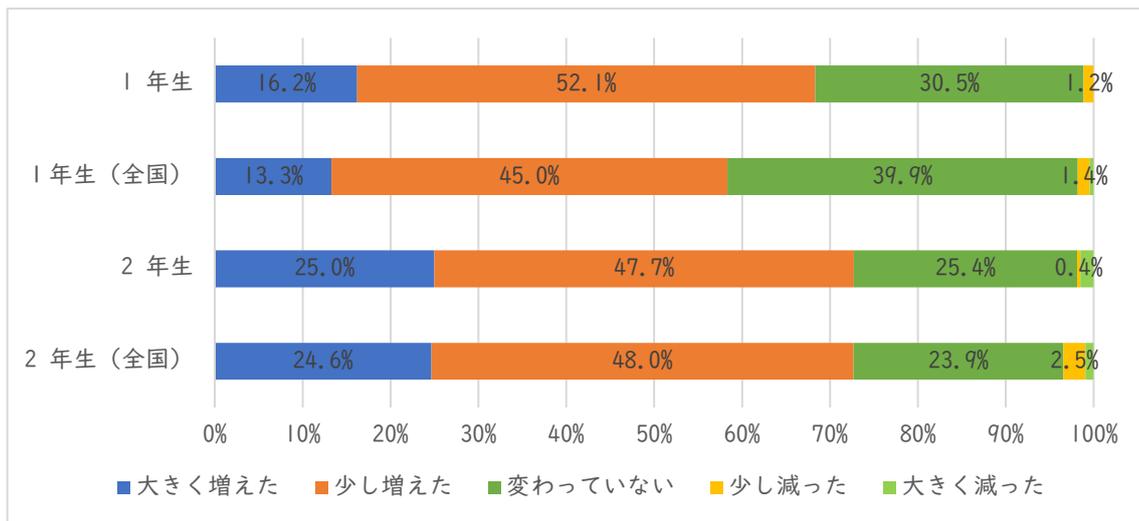


図17

⑤ これからのキャリアやライフデザイン、働き方に関する意識

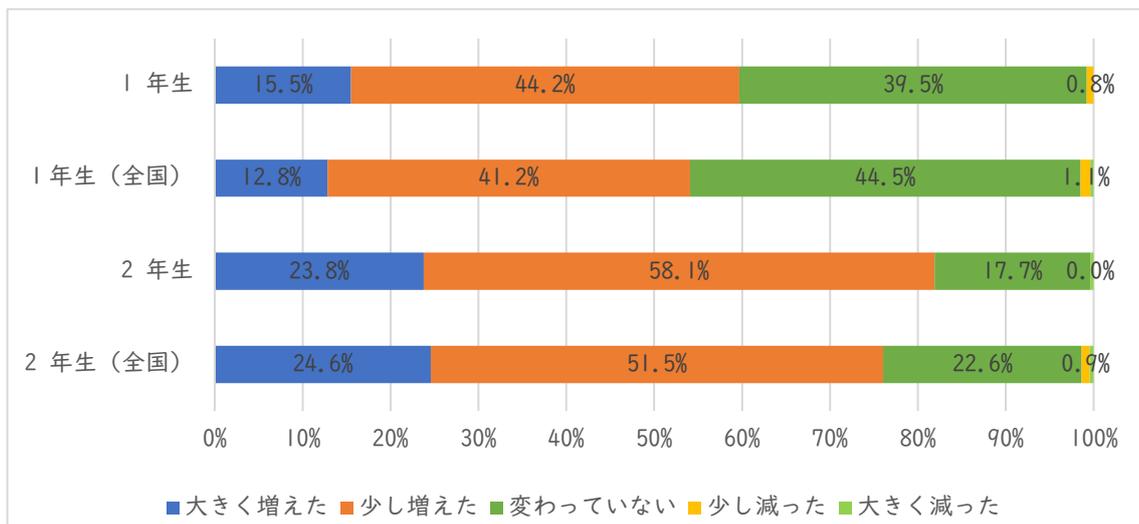


図18

(6) 推奨度について

①2023 年度入学生の 2 年時の結果

本学を親しい友人や後輩、親戚にすすめるかの質問に対する回答を下記 (図 19) に示す。

*総回答数 (2023 年度入学生)

| | | |
|----|-------|-----|
| | 2 年生 | |
| 本学 | 264 | (人) |
| 全国 | 6,092 | |

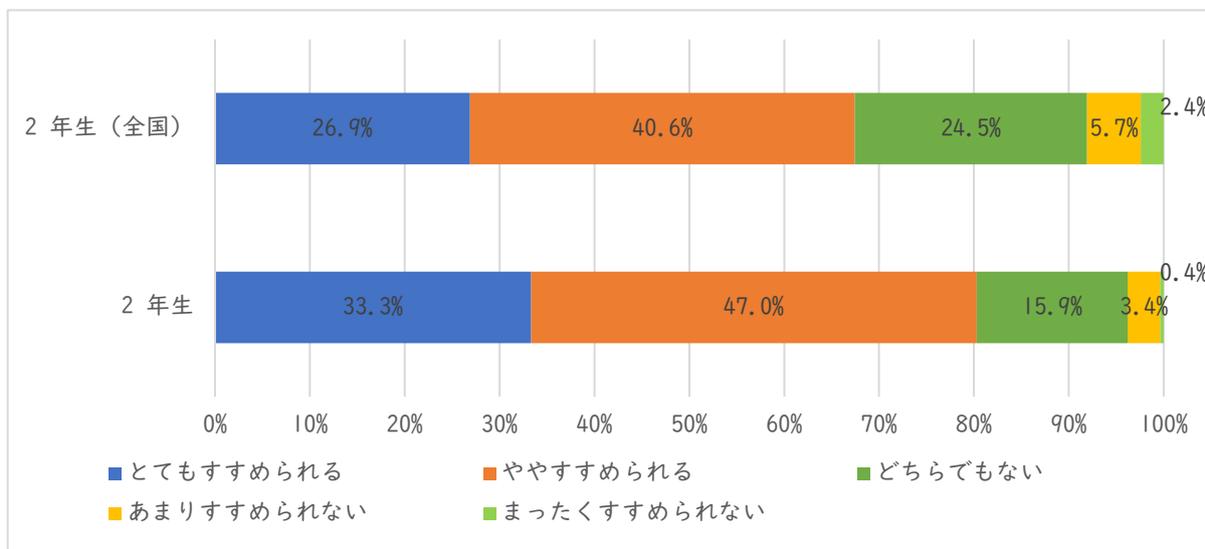


図 19

②成長実感と推奨度の関連

成長実感については、「大きく減った」「少し減った」を低群、「変わっていない」を中群、「大きく増えた」「少し増えた」を高群の 3 つの群に分ける。本学を親しい友人等にすすめるかを推奨度とし、「とてもすすめられる」「ややすすめられる」を高い、「どちらでもない」を中間、「あまりすすめられない」「まったくすすめられない」を低いの 3 つの群に分け、クロス分析を行った結果 (表 1 ~ 5) を示す。

成長実感と推奨度の関係についてカイニ乗検定を行った結果、「総合的な知識 ($\chi^2=8.0, df=2, p<05$)」「情報リテラシーと表現力 ($\chi^2=6.0, df=2, p<05$)」「社会貢献意識 ($\chi^2=11.8, df=2, p<.01$)」「総合的なビジネススキル ($\chi^2=36.4, df=4, p<.001$)」「キャリアデザイン意識 ($\chi^2=31.7, df=4, p<.001$)」となり、それぞれに有意差は認められた。

表 1 総合的な知識

| | | 推奨度 | | | 合計 |
|------|----|-----|----|-----|-----|
| | | 低い | 中間 | 高い | |
| 成長実感 | 中群 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| | 高群 | 9 | 42 | 209 | 260 |
| 合計 | | 10 | 42 | 210 | 262 |

表2 情報リテラシーと表現力

| | | 推奨度 | | | 合計 |
|------|----|-----|----|-----|-----|
| | | 低い | 中間 | 高い | |
| 成長実感 | 中群 | 2 | 1 | 9 | 12 |
| | 高群 | 8 | 41 | 203 | 252 |
| 合計 | | 10 | 42 | 212 | 264 |

表3 社会貢献意識

| | | 推奨度 | | | 合計 |
|------|----|-----|----|-----|-----|
| | | 低い | 中間 | 高い | |
| 成長実感 | 中群 | 2 | 5 | 8 | 15 |
| | 高群 | 8 | 37 | 202 | 247 |
| 合計 | | 10 | 42 | 210 | 262 |

表4 総合的なビジネススキル

| | | 推奨度 | | | 合計 |
|------|----|-----|----|-----|-----|
| | | 低い | 中間 | 高い | |
| 成長実感 | 低群 | 2 | 0 | 1 | 3 |
| | 中群 | 1 | 2 | 4 | 7 |
| | 高群 | 7 | 40 | 206 | 253 |
| 合計 | | 10 | 42 | 211 | 263 |

表5 キャリアデザイン意識

| | | 推奨度 | | | 合計 |
|------|----|-----|----|-----|-----|
| | | 低い | 中間 | 高い | |
| 成長実感 | 低群 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | 中群 | 2 | 1 | 9 | 12 |
| | 高群 | 7 | 41 | 202 | 250 |
| 合計 | | 10 | 42 | 211 | 263 |

3. 結果をとおして（考察）

（1）成長実感について

全国平均と比較しても本学の学生は多くの項目において成長実感が高く、これらの結果は、本学の教育が学生の主体的な学びを促し、高い教育効果を上げていることを示していると考えられる。また、学修成果として質の高い成長が得られていることも確認でき、教育の質保証（アセスメント）の観点からも重要な指標となると思われる。

1年次と比較して2年次においては、知識や専門分野に関する理解の深まりに加え、論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、リーダーシップ、チャレンジ精神、さらには自己理解や自己肯定感の向上など、幅広い領域において「知識・能力が大きく増えた」「少し増えた」との回答が多数を占めている。2年生になると、より専門的な内容や高度な知識に取り組むことが多くなり、これにより、学習の理解度や達成感が高まり、満足感が向上していると考えられる。

そして、学生が知識・能力の向上を自覚している点から、受動的な学習ではなく、主体的・積極的に学びに取り組む姿勢が育まれていることがうかがえる。また、実践的な経験や協働的な学びを通じて、単なる知識の習得にとどまらず、社会的・人間的な成長も促されている点が顕著にみられ、今後もこの成長を継続的に支援していく体制の整備が求められる。

(2) 成長実感と推奨度の関係について

入学当初は新しい環境や学習方法に慣れる段階であるが、1年後期から自分の進路や将来の目標に対して具体的なイメージを持ちやすくなり、学習の意義や目的をより明確に感じられることで、学習意欲や満足度の向上に寄与している。

本学が提供するカリキュラムや実習等を通じて、学生が実社会で役立つスキルや知識を習得できる環境と就職支援やキャリアデザインの指導が充実していることや、学生が自分の将来像を描きやすく、具体的な目標設定と達成に向けてサポートを受けられている実感していることも推奨度に関係していると考えられる。また、本学が社会貢献や地域との連携を積極的に推進しており、学生が社会的責任や貢献意識を育む機会が多いことも評価が高くなっており、今後も学生の個々の成長を促す環境の提供を意識していくことも重要である。

(3) 今後の課題

本学は学習成果として、「現代生活に即した専門的知識と実践的技能及び思考力・判断力・表現力と課題解決能力を有する」「豊かな情操と高い教養を有し、心身ともに健康で調和のとれた人間像を目指して自己啓発ができる」「地域活性化・国際化の意欲的な担い手としての素地を有する」を掲げている。これらの結果をふまえ、教育の質の高さと実践的な教育の強化、学生支援の充実、国際化の推進等について継続的な改善等をつけ、学生満足度の向上を目指していく。

(別紙) 成長実感に関する因子構造結果 (Promax回転後の因子パターン)

| | 因子 | | | | |
|--------------------------------|---------------------|---------------------|--------------------|------------|------------|
| | 総合的な ビジネス スキル | 情報リテ ラシーと 表現力 | キャリア デザイン 意識 | 社会貢献 意識 | 総合的な 知識 |
| 他の人と上手に意思の疎通を行う力 (コミュニケーション能力) | 0.750 | -0.001 | 0.077 | 0.083 | -0.077 |
| チームや組織をリードする力 (リーダーシップ) | 0.717 | 0.070 | 0.154 | -0.051 | -0.095 |
| 人前で発表をする力 (プレゼンテーション能力) | 0.535 | 0.045 | 0.171 | 0.012 | 0.044 |
| 数値やデータを理解する力 | 0.073 | 1.031 | -0.136 | -0.162 | -0.048 |
| 本や資料などを読み解く力 | -0.032 | 0.662 | 0.009 | 0.125 | 0.010 |
| 文章 (レポートなど) を書く力 | -0.090 | 0.400 | 0.210 | 0.123 | 0.148 |
| パソコンやタブレットなどの情報機器を使う力 | -0.030 | 0.322 | 0.157 | 0.217 | -0.055 |
| ねばり強く取り組む力 | 0.154 | -0.054 | 0.800 | -0.129 | 0.051 |
| 挑戦する力 (チャレンジ精神) | 0.227 | -0.090 | 0.750 | 0.002 | -0.014 |
| 計画性・スケジュール管理能力 | 0.088 | 0.077 | 0.530 | -0.021 | 0.064 |
| 自己を理解し肯定する意識 | 0.192 | 0.174 | 0.374 | 0.046 | 0.036 |
| これからのキャリアやライフデザイン、働き方に関連する意識 | 0.132 | 0.192 | 0.313 | 0.139 | 0.038 |
| 異なる文化や考えを持つ人々を理解する力 | -0.078 | 0.008 | -0.052 | 0.980 | -0.072 |
| 社会の抱える様々な問題を理解する力 | 0.118 | -0.003 | -0.113 | 0.560 | 0.189 |
| 地域や社会に貢献する意識 | 0.234 | -0.020 | -0.008 | 0.538 | 0.038 |
| 論理的に考える力 | 0.127 | 0.088 | -0.103 | -0.057 | 0.699 |
| 専門分野や学科の知識 | -0.131 | -0.148 | 0.239 | 0.033 | 0.538 |
| 一般的な教養 | -0.059 | 0.241 | 0.057 | 0.112 | 0.305 |
| 因子間相関 | 総合的なビ ジネススキル | 情報リテ ラシーと表現力 | キャリアデザ イン意識 | 社会貢献意識 | 総合的な知識 |
| 総合的なビジネススキル | — | .306** | .499** | .265** | .245** |
| 情報リテラシーと表現力 | | — | .293** | .306** | .340** |
| キャリアデザイン意識 | | | — | .254** | .398** |
| 社会貢献意識 | | | | — | .339** |
| 総合的な知識 | | | | | — |

*下位尺度間の関連

内的整合性を検討するために各下位尺度の α 係数を算出したところ「総合的なビジネススキル」で $\alpha = .88$ 、「情報リテラシーと表現力」で $\alpha = .78$ 、「キャリアデザイン意識」で $\alpha = .86$ 、「社会貢献意識」で $\alpha = .79$ 、「総合的な知識」で $\alpha = .62$ と十分な値が得られた。